

松嶋夜話 卷之下 15

〔原文〕古聞五百年而王者一興矣

〔訓読〕古に聞く、五百年にして王者一たび興ると

〔原文〕這三百年來禪風衰耗

〔訓読〕這の三百年來、禪風衰耗し

〔原文〕其間爲國王大臣有膺恭敬

〔訓読〕其の間、國王大臣の為に恭敬を膺（う）くる有り

〔原文〕人只一方設化耳

〔訓読〕人只だ一方に化を設けるのみ

〔原文〕寛永之頃三頭于天下

〔訓読〕寛永の頃、天下に三頭あり

〔原文〕有實豁開眼目人

〔訓読〕実に眼目を豁割する人有り

〔原文〕廣其道德宏其風儀

〔訓読〕其の道德を廣くして、其の風儀を宏くす

〔原文〕知叢林從是有禪旨

〔訓読〕叢林是れ從り禪旨有るを知る

〔原文〕然時機未熟

〔訓読〕然れども時機未だ熟さず

〔原文〕竟中於三頭化去

〔訓読〕竟に三頭化して去るに中る

〔原文〕幸大和老人來而建立法幢流風寰海

〔訓読〕幸いに大和の老人來りて法幢を建立し、風を寰海に流す

〔原文〕無貴無賤稱坐唱禪

〔訓読〕貴無く、賤無く、坐を稱し、禪を唱う

〔原文〕四海無不扇道風者矣

〔訓読〕四海道風を扇がざる者無し

〔原文〕然某某立一家禪蔑其風規者二家

〔訓読〕然して某某一家禪を立て、其の風規を蔑(ないがしろ)にする者二家

〔原文〕其一家者有彼檠藥中勺其風香來且歸家爲化人施彼檠藥自稱醫王却算他之準繩非理仍揚其弊拾其玷而檠藥爲不甘者

〔訓読〕其の一家は、彼の檠藥の中に其の風香を勺(く)み、且つ家に歸りて人を化するが為に、彼の檠藥を施し、自ら醫王と稱し、却って他の準繩の非理を算え、仍て其の弊を揚げ、其の玷たるを拾ひ、而も檠藥甘からずと爲る者有り

※この文長すぎで、分割するかどうか？

〔原文〕夫吾謂之

〔訓読〕夫れ吾之を謂いて

〔原文〕爲竊鈴而掩耳之人矣

〔訓読〕鈴を竊ひて耳を掩ふの人と為らん

〔原文〕其一家者有於留先入之鴉臭風為主之不檢他門制度定規却誇言支那無禪師不移善不易不善者師子皮作野干鳴者

〔訓読〕其の一家は、先に入るの鴉臭風を留めて、之を主と爲し、他門の制度定規を檢せず、却って支那に禪師無しと誇言し、善を移さず不善を易へず、師子皮を著して野干が鳴くを作す者有り

※この文長すぎで、分割するかどうか？

※「有於留」は「有↓於」か「於↑留」にするか？

〔原文〕夫吾謂之

〔訓読〕夫れ吾之を謂いて

〔原文〕爲河伯多水而不知有海者

〔訓読〕河伯水を多しとして海有るを知らざる者と爲る

〔原文〕看二家禪害也冲也

〔訓読〕二家の禪害なるや、冲(むなし)かれや